カトリック高松教区報

２０２１年9月12日（第２０３号）
発行所 カトリック高松司教区 広報委員会
〒760-0074　高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659　FAX 087-833-1484
Email
教区:catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.jp
広報:tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成:yousei@takamatsu.catholic.jp
WEB　http://www.takamatsu.catholic.ne.jp/

マザー・テレサの言葉

あなたに出会った人がみな、最高の気分になれるように、親切と慈しみを込めて人に接しなさい。あなたの愛が表情や眼差し、微笑み、言葉にあらわれるようにするのです。

祖父母と高齢者のための世界祈願日

わたしはいつもあなたとともにいる

敬老の日に寄せて　使徒ヨハネ　諏訪榮治郎

第1回「祖父母と高齢者のための世界祈願日」の教皇メッセージ（２０２１年７月25日）要約

「わたしはいつもあなたとともにいる」―これは、主が天に昇る前に弟子たちにした約束であり、今日主があなたにも、親愛なる祖父母の皆さんにも、繰り返しておられるものです。

パンデミックは予期せぬ激しい嵐、皆の生命に迫る厳しい試練ですが、わたしたち高齢者は特別な処遇を、より過酷な処遇を受けています。けれども、このパンデミックの数か月のように、何もかも真っ暗に思えるときでも、主は天使を遣わし、わたしたちの孤独を慰め続け、「わたしはいつもあなたとともにいる」と繰り返しておられます。

聖書は、主が今日、わたしたちの人生を通して何を求めておられるのかを理解する助けにもなります。わたしがローマの司教の召命を受けたのは、いわゆる定年を迎え、これ以上新たなことはできないだろうと思い込んでいたときでした。主はいつもわたしたちのそばにいてくださいますが、いつでも、新たな招きをもって、新たなことばとともに、慰めを携えておられ、いつもわたしたちのそばにいてくださいます。主は永遠であり、決して引退なさいません。決してです。

イエスは使徒たちに命じています。「あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。」このことばは、今日のわたしたちにあてたものでもあり、わたしたちの召命は、伝統を守り、若者に信仰を伝え、幼い子の世話をすることだということです。福音を伝える務め、孫たちに伝統を伝える務めに定年などないのです。ですから、歴史の決定的な瞬間に、あなたにもまた新たな召命があるのです。ニコデモは尋ねました。「年をとった者が、どうして生まれることができましょう。」主は、思いのままに吹く聖霊の働きに心を開くことで可能になるのだと、お答えになります。聖霊は、もっておられる自由さをもって、どこにでも行かれ、望むままに働かれるのです。

兄弟愛と社会的友愛をもって明日の世界を、嵐の後にわたしたちと子どもと孫とが生きる世界を築くには、あなたが必要なのだということです。わたしたちは皆、「傷ついた社会の回復と支援に、積極的に参与しなければなりません。」あなたが助けとなって他の人よりもよく配置できる三つの柱があります。「夢、記憶、祈り」という三つの柱です。主がそばにいてくだされば、わたしたちの中のもっとも弱い人にも、「夢、記憶、祈り」の道を通って、新たな歩みを踏み出す力が与えられるでしょう。

預言者ヨエルは、次のような期待を告げました。「老人は夢を見、若者は幻（ヴィジョン）を見る」（３・１）。世界の未来は、若者と老人のこうした結びつきにあります。若者のほかに、いったいだれが、老人たちの夢を受け継ぎ、それを推し進めることができるでしょうか。そのためには、「夢」を見続けることが必要です。正義、平和、連帯を求めるわたしたちの夢の中に、若者たちが新たな幻（ヴィジョン）をもつ可能性が秘められており、わたしたちはともに未来を築けるのです。

わたしは、戦争のつらい「記憶」はどれほど重要であるか、新しい世代がそこから平和の価値をどれほど学ぶことができるかを思います。あなたは戦争の苦しみを生き抜いたのです。「覚えておく」ということは、すべての高齢者の真の使命です。わたしはまた、わたしの祖父母のことを思い、移住せざるをえず、家を離れることがどれほどつらいかをご存じのかたがたのことを思い起こします。今日もなお、多くの人が、未来を求めてそうしています。

最後は「祈り」についてです。わたしの前任者である教皇ベネディクトは、以前次のように語りました。「高齢者の祈りは世界を守り、おそらく多くの人の必死のもがきよりも的確に、世界を助けることができます。」あなたの祈りは、価値ある資源なのです。全員が同じ船に乗り、パンデミックという嵐の海を行く中にあって、世界と教会のためのあなたの執り成しの祈りはむなしいものではなく、むしろすべての人に、到着地についての泰然たる確信を示してくれます。自分自身の砂漠の孤独にあったとしても、世界中の貧しい人のために執り成しの祈りをささげ、真に、すべての人の兄弟姉妹となることはできるのだということです。

主に願い求めます。そして主の模範によって、わたしたち一人ひとりが、心を広くし、もっとも追いやられた人の苦悩に敏感になり、彼らのために執り成すことができますように。「わたしはいつもあなたとともにいる」――今日耳にしたわたしたちへの慰めのこのことばを、すべての人、とくに若者たちに、繰り返し伝えることを、わたしたち一人ひとりが学ぶように。くじけず行きましょう、勇気を出して。主の祝福がありますように。

「祖父母と高齢者のための世界祈願日」のための祈り

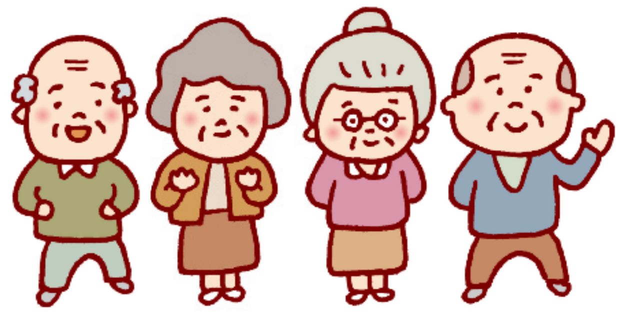
主よ、ともにいてくださるあなたの慰めに感謝いたします。
孤独なときも、あなたはわたしの希望、信じる心のよりどころです。
若いときから、あなたはわたしの岩、わたしのとりでです。

わたしに家族を与え、長寿をもって祝福してくださったことに感謝いたします。
喜びのときも困難なときも感謝し、人生ですでに実現した夢と、この先にある夢に感謝いたします。
わたしを招いてくださった、この新たな実りの時に感謝いたします。

主よ、わたしの信仰を強め、わたしをあなたの平和の道具としてください。
わたしよりも苦しんでいる人を抱き締めること、夢を見続けること、そして、新たな世代にあなたの素晴らしさを伝えることを教えてください。

教皇フランシスコと教会を守り、導いてください。
福音の光が地の果てにまで届きますように。
主よ、あなたの霊を送り、世界を新たにしてください。
パンデミックの嵐が静まり、貧しい人が慰められ、戦争を終わらせることができますように。

弱いわたしを支え、世の終わりまで、日々、あなたがともにおられることを確信し、あなたが与えてくださる一瞬一瞬を精いっぱい生きることができるよう助けてください。
アーメン。



はばたき

最近の知人の家族の死です。40歳代の女性の夫が、ある夕方、息苦しいと訴え、受診とともに即、入院となり、その日の夕方に意識を失い、5日後に帰天しました。同僚の彼女は、1週間の忌引き後に、こう言いました。「私が最も苦しかったのは、コロナの感染対策ということで、病院から集中治療室での見舞いを断られたことです。夫が急にいなくなるかもしれないというときにですよ」と。続けて彼女は「私は自分のことを顧みず、嘆願しました。家族が亡くなろうとするときに誰にも看取られないということがあっていけないと思います。万全の対策で臨みますから傍に行かせてください」と訴え認められたそうです。彼女は夫の両親とともに、夫の身体に触れて、静かな見守りの中で見送ったと語りました。さらに彼女は「家族に看取られないなんて、そんなことはあってはいけないと思いました。もし、医療者がそんなことをするのならば、変えていかなければいけないと思いました」と。彼女自身は自らの経験を踏まえて、一つの信念を持っていたと思います。コロナ禍で思いがけない「突然の死」に出会う方も増えていることでしょう。家族との別れの時間は、長い介護があったから納得できるというものでもなく、短い時間であっても、最上の愛を送ることができるかという、この一点にかかっているといえます。私たちの信仰はそれを教えられていると思います。

司教書簡をガイドに
主の祈り　黙想と分かち合い

今年度の司教書簡「主の祈りを黙想する」では、私たちが日頃唱えている主の祈りについて、ゆっくりと立ち止まって、祈りの一つ一つの意味を考え黙想することが勧められています。コロナ禍で人が集まることが難しい今、教区報を利用して、個人での黙想や少人数での分かち合いを紹介し、より多くの方と分かち合いたく、投稿をお願いしていました。

貴重な体験をお寄せいただき、ありがとうございます。引き続き、紙面を通しての分かち合いをしたいので、皆様の投稿をお待ちしています。

主の祈り　私の黙想

小豆島教会　坂井潤子

7月25日、小豆島教会にて、4回目の信徒による集会祭儀を行いました。

今回は特に、主の祈りを黙想し、分かち合うことを主眼といたしました。初めて教会に来られた方も、積極的に発言をいただき、静けさの中にも活発な分かち合いでありました。

私は司式者の助手として、祭儀の前日、「社会と共に歩む教会をめざして」（司教教書）を、幾度目かの通読をいたしました。当日、一節ごとに分かち合って朗読している最中、『阿南滋子さんの場合、「最後に残るのは神から愛されていること、これだけ』』の箇所から目が離せなくなりました。何度も読んだ所なのに、急に心をわし掴みにされたように感じました。

そして二週間後、ちょっとした手術で入院しました。ベッドに横たわって、お祈りをしようとしても、心がお祈りになりません。思い切ってイスに座り、痛くなったら立ち上がり、を繰り返して、ロザリオの祈り一環を終えました。うれしくなって、ニコニコしながらベッドに戻りました。横になった時、ゆっくり、フワリと浮かび上がってきました。阿南滋子さんのこと。お祈りもできなくなった彼女が、「ただ愛されていること、それだけ」と残された言葉に衝撃を受けました。私はお祈りをしている気分になりたかっただけなのか・・・。全ての身体的活動を封じられた阿南滋子さんのたどられた信仰の道、豊かな心の厚み、この事を教えていただくための、信徒による集会祭儀「主の祈りの分かち合い」、そして手術であったのかと思います。

日々読む聖書のみことばが、祈りのみことばが、ゆっくりゆっくり、フワリと、心の中に染み渡りますように。

愛媛地区より

2020年は公開ミサの中止など中止や教区大会の中止などがあって、2019年の教区大会が桜町教会で全地区からの分かちあいの報告がなされたことを懐かしく思い出されました。

2021年の諏訪司教の教書「主の祈りについて」を読んでいただけたでしょうか。主の祈りは、キリスト教諸派のすべてが共有する最も核心的な祈りですから、代々のカトリックの信仰を受け継ぐ方々の中には、子供の頃には文語体の祈りを呪文のように唱えた記憶を持つ方もあるでしょう。第二バチカン公会議以降、国語による主の祈りになじみ、さらに文語体から口語体になり、より身近に「こどば」を味わうことができるようになりました。今はコロナ禍のために、司教書は小教区のそれぞれの方法で黙想することが勧められました。そこで、愛媛地区の取材を行いましたので、ご報告します。

愛媛地区の小教区は、伊予三島教会が香川地区の司牧となりましたので、7小教区を対象としました。

松山教会は、報道で周知の通り、市内の爆発的な感染拡大の状況から、「教会活動が再開してから各自が司教書簡を持って帰り、黙想をするようにお願いをしました」とのこと、今治教会では「司祭から信者各自に配布され、個別に黙想を行うよう促された」とのこと、宇和島教会では「ミサが再開になりましたので、できるだけ早い時期に黙想会を行いたい」とのことでした。その他の小教区では、7月末の段階で具体的に動きが報告されませんでした。

姦通の女（部分　レンブラント）

小共同体である八幡浜教会では通常ミサ参加者の7名による分かちあいを行いました。6月中に書簡を抄読、7月第一日曜日にわかちあいました。まず、書簡にある問いかけについて所感を述べあいました。「石を投げられた女性の聖書の箇所」について、イエスがこの場面で伝えたかったことは、「生き方を与えた」「生きる希望を与えた」「愛と自由を与えた」「イエスの行為が愛そのものであると感じた」「幼い子供が敏感に受け止めるであろうと感じた」「真の愛の行為は何者をも妨げないということ」などの所感が述べられました。また、最後の「ひよこの誕生図」の印象として「殻に戻る場面は『孤独』を意味しい分かち合いを文章にして、それを読む方々と地域を越えてまた分かち合いたい気持ちに駆られ、教区報に投稿することにしました。

何かと自粛を余儀なくされる日々が続き、対面での交流ができないこの頃ですが、この分かち合いの文章を通して、主と私たち、そして読む皆さん同志の霊的な交わり・一致が、時空を超えて実現できればと強く望んでいます。

徳島地区三教会より

（徳島、鳴門、阿南）

ブラザー八木信彦

徳島地区の三教会（徳島、鳴門、阿南）では、各教会で司教書簡を分かち合いました（日時、参加人数は括弧内参照）。皆さんの素晴らしい気持ちに感謝しつつ終了しました。

徳島教会

（2021・5・23　11時～12時　13名）

・私が洗礼となったのは、私には小児麻痺の弟がいた。弟がまだ小学校に上がる前の7歳の時、その病気で亡くなってしまった。子どもながらに、どうしてそんなに短い命で、普通の人が楽しめる長い人生、これからいろんなこと、楽しいことが待っているのに、学校に行きたいと思っていたのに行けない、そんな子がいるのかな、神様どうしてと思っていた。また父や母は、弟の病気が治るように神様にものすごくお祈りしていたし、色んな手立てもして努力もしたけど、結局亡くなってしまった。そんな体験がある。星野富弘さんの文章の中にもあったが、主の祈りと出会い、神様は私たちの父ちゃん、造り主なんだ、永遠の命があって、弟も今はその天の父のもとで安らかに安心して過ごせるんだと思った時、ものすごく嬉しい気持ちになった。そんなことがあって私はキリスト教の道を歩むことになったが、主の祈りを要理で教えられ、朝起きて主の祈りを唱える。「今日一日、私は天の神様のことを考えていたな」という日々もあり、私にとっては天の父を賛美する、それは主の祈りとの出会いの中で最初の喜びとなった。

・自分を信じることは罪だということがあったが、私は若い時、自分は賢いと思っていた。四旬節の時、最初甘いものを止めようと思っていたのに、どうしても止められなくて、肉を食べるのを止めようと思っていたが、結局食べてしまった。四旬節にこれだけ頑張ろうと思っていたのにほとんど何もできなかった。自分を信じるというより、自分を頼りにしてしまうことだ。強い人は自分を信じていると思うが、私のように弱い人は、自分を信じるより神様を信じた方が、手っ取り早く強くなれるのではないかと思った。若い時は自分を信じるというか、賢い者だと思っていたが、今は、何年か経って若い時のこと、自分のやってきたことを振り返ってみたら、それは賢いことではなく、恥ずかしいこと、色々と反省することである。

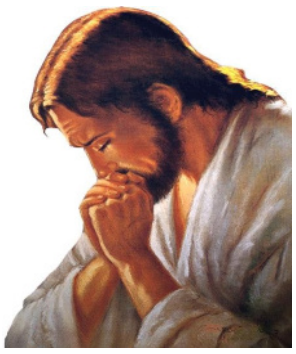
・22歳の就職の時、社会科の先生の採用もなく、いろんなことが重なって、何もかもダメだという無力感、絶望的になってうつ病になった。それで聖書を渡され、教会と繋がらずに聖書を読み、それでイエスを信じた。その後、外に出られるようになり、10年経って病気をもらった。それは今でも続いていて治ることはない。阿南慈子さんは、亡くなってしまうような大病だったが、私は注射を受けるおかげで今も生きている。私が病気になって1年目の32歳の時、ある人から阿南慈子さんの本をいただいた。司教書簡を見た時、一生懸命この本を探して、それが見つかり読み直した。その時思ったのは、この阿南慈子さんはカトリックの家庭に生まれ、幼児洗礼

だった。突然の病気になる前に、神様を信じていたことによって、この病気をもらったとしても、全然人生は違っただろう。私も22歳の時にイエス様を信じた。どこの教会にもつながらなかったが信じていた。聖書があればいけると思っていた。そして私が病気になった時、意識はあるが全く食が進まず何もできない、何もすることがない、そういう状態で聖書だけを1か月読んだ。聖書の神様を信じていたから、聖書の時間だけが一番人生で幸せだった。もしその時死んだとしても、賀川豊彦の「ふすまを開けて隣の部屋に行くようなものだ」という感覚でいたので、死に対しても永遠のものと思っていた。阿南慈子さんの場合も、生きていく中でいろんな困難がある前に、イエス様、神様の存在を信じられる環境にあったことは、本当に恵みだと思った。知っていたから、同じことが起こっても、泣き明かすような日々だったかもしれないが、イエス様を信じられたら、絶望のように人から見られたとしても大丈夫だっただろう。イエスを知り信じていたら、全然違うということを皆さんに伝えたい。でも、子どもには何も伝わっていない。イエスを知る信じることの恵みを、阿南慈子さんの本を読み直して改めて感じた。

・私が初めて教会に行ったのはクリスマスの時。キリストが生まれたという喜びから教会に入ったので、苦しい時ではなかった。だから司教書簡で一つすごく気になるというか感じたのは、阿南慈子さんのことも言われたが、「み名が聖とされますように」というところで、十字架というのは、みんなに苦しみがあった時に、なんで私だけこんな苦しみがあるのだろうと思う場合があるが、私たちが背負っている十字架というのは意味があって、それは病気であっても、人生でこれがやりたかったのにできなかったとしても、そういう時に、神様はこのことによって私に何を伝えようとされているのか、そういう視点を変えるということ。そのことで、苦しみを受け容れられる、それを乗り越えられることに繋がってくる。その意味では、「み名が聖とされますように」という言葉が、こんな意味があるのだなと気づかされた。もう一つは罪の話で、善と悪の関係性、信仰による義とある。このことも私は聖書や神父さんのお話の中で気づいたが、善の反対は悪、悪の反対は善と考えているが、そうではなく、悪は善の欠如だということ。みんなの心の中に善があるが、善が欠如した時や欠けた時に、悪が入り込んで来る。そういう時、ゆるしという言葉との繋がりと思うが、その人は悪い人ではなく、たまたま善が欠如した状態だったから悪いことをしたと考える。自分もそうで、私は悪い人間だというよりは、今その状態は善が欠如した状態だから、元に戻るにはどうしたらいいのかという風に考えられるようになった。主の祈りは食前にしか唱えなかったが、こんなに深い意味があるのだなということを、今回改めてこの司教書簡を読んで知った。

・先日、永平寺のお坊さんの日常生活、祈り、生き方についての番組があり、非常に厳かに厳粛に、深く雑念と向き合っておられた。その状況を見て信仰の素晴らしさを見た。一体キリスト教と仏教の違いは何だろうかということを考えた。仏教は何のために生きるのか、意味を悟る。自分自身を見つめて、自分の欲望から解放されて、ある意味苦しみを乗り越えるために自分を無にする。非常に自己救命的である。ここ（司教書簡）に書かれている主の祈りの中で、「誰のために生きるのか」これが私はキリスト教を特徴づけているものの一つだと思う。横のつながり、皆神様から創られた兄弟というように、時々日本人は身内のことをものすごく大事にする。身内のことなら一生懸命で、身内を大切にして集まり楽しくやる。他の人に対する関心というのはそれほどない。縁のない人は無縁、赤の他人とかになってしまう。キリスト教は、誰のために生きているのか、自分のためではなく誰のために生きているのか、ということを深く考えさせられる。主の祈りも祈りながら「我ら」という感じで、そういう意識を改めて考え直しながら、苦しんでいる人たちや助けを求めている人たちに対して、どういう態度をとっているのか。例えば今、インドの人たちがたくさん（コロナで）亡くなっている。そこに一早く援助する。あるいはミャンマーに対しても、日本は経済的に援助しているのに軍に対しては何もしない。人の苦しみを共にするということを、私たちはもう一度祈りを唱えながら黙想したいと思った。

・今誰のために生きるかという話が出てきたので、私も今考えたが、私はイエス様と出会ってしまったので、それでイエス様のために生きていると思う。彼のために彼の中で彼と共に生きるのが、これが私の幸せだとわかって、イエス様のように生き、イエス様に従い、そのように生きていこうと思っている。だから聖書を読むと、イエス様がどのようにしたかがよくわかる。小さい人、貧しい人、病人とか悪人とか罪人とか、そういう人たちと仲良くされた。だから私もそのように生きていこうと思い、生きてきたが、なかなかそうはいかない。怒ったり腹立てたりすることもあるが、その原点はイエス様。イエス様に捕まえられた。それで仕方なく…ではないが、そう生きざるをえなくなったというのが私の生きている主なものだ。これからもそういう風になりたい。考えてみても他に生きる道がないので、この道を行こうと思っている。



・聖霊はとても神秘なことで、2000年もの間、聖霊によって時が流れてきたことを私たちが受け容れて、そのお恵みをいただいて私たちは幸せに思う。ある神父さんから、主の祈りほど良い祈りはない、聖書の中でそう語っているよと教えていただいた。このように一つ一つの説明、解説を受けると、やはり感謝と賛美と言うか、私たちへの神様からの一番の贈り物だと思う。イエス様のために生きること、その道を私たちもベースにして生きていきたい。

・私は幼児洗礼で、特にキリスト教やカトリックに対して、一生懸命勉強したことも突っ込んで研究したこともなく、ズルズルとこの歳まで来た。ただなぜかカトリック教会から離れられない自分がいるのは感じている。主の祈りに関して、私は高校卒業するまで徳島で育ったが、小学校の時に公教要理で意味も分からず、「天にまします我らの父よ願わくは…」もう復唱復唱復唱で、「めでたし」もラテン語の辞書も全て、とにかく覚えさせられた。意味も分からず覚えるだけ覚えた。色んな教会を渡ってきたが、蒲田の教会で、子どもたちの勉強とか侍者のことで、主の祈りを唱える時に、その意味をみんなで考える、ということがあったくらいだった。意味がわからないまま来ていて、先日諏訪司教様の突っ込んだ主の祈りを考えようというのを頂いて、これで少しは分かるようになったかなと思って喜んだが、実際に書簡を頂いて読んでみても、なかなか、「うん、そうか」と来るところがまだまだない。今日（分かち合いに）参加することによって、皆さんのそれぞれに対するお考えを聞いて、「ああそういう意味だったのかな」という風に感じられればいいかなと。いくつかの皆さんの話を聞いて、「あ、そうかそうか」ということがあった。こういう機会をありがとうございました。

・主の祈りはいつもミサの中でも唱えていて、司教書簡をきちんと読んでいないが、改めて二つ思ったことがある。「み国が来ますように」ということで、私もFaceBookを上げているが、そこにも「地には善意の人に平和あれ」と一番初めに書いている。お互いのために平和、お互いがもっと考えることができれば、人々がより良い社会になるのではないかということ。それともう一つ思ったのは、主の祈り前半四つは、御父への賛美を祈るということで、一番の「神の愛が私となった」の中で「私が私であることを願っておられる」。私たちが祈る中に、神が私は私であることを願っておられる、そのことに本当にありがとうございます、御父への賛美を祈る、そういう風に私は解釈した。また「私の存在を喜ばれ」「あなたがあなただから。私の存在を丸ごと愛してくださる方」それはもちろん賛美したくなる。私が私であるということを考えた時に、実際に時を経て10年前よりは、確かに自分が自分らしく生きることができている気がする。それが御父への賛美、感謝。それをしなければいけない、ということを、主の祈りを深く見つめることで、改めて感じることができた。

・最初のところで、人生の主人公は父である神様である、というところと、自分を信じることは罪というところが重なるかなと思った。私が聞いた歌謡曲とかでは、「自分を信じて」とか「主人公は自分だ」とか、そういう歌詞が結構あるので、私もそういう風に思っていた。でも、真逆と言うか、「あーそうなんだ」と思って、逆なところが今すごく私にはしっくりくると言うか、とても気になったところ。

鳴門教会
（2021・6・20　11時～12時　15名）

・「御国が来ますように」の、イエスのもたらすものと律法学者やファリサイ派の心にあったものが、すごくたくさん心当たりがあるということ。それから、朝起きた時から夜眠るまで、自分中心に色んなものにこだわっていて、それに縛られている。この主の祈りを通じてずっと言われているのは、あなたが良い子だからではなく、あなたがあなただから、ということ。そして、あなたが私を選んだのではない、私があなたを選んだというところが、心に響いた。やはりいろんなところで自分が自分自身を縛りつけている。そこから自分がそれにとらわれないでもっと自由になることのための主の祈りかなと思った。なかなかそれは思ってもできないことだが、そういう風に感じた。

・「私たちの日毎の糧を今日もお与えください」で、司教様は食料について、分配に問題があると言うことだが、食料だけではなく、例えばコロナのワクチンもだが、本当に必要なものが公平に、お金がなくても必要なところに届くようにするというのは難しいことだなぁと、今のニュースを聞きながら毎日感じている。本当に分け隔てなく、何の問題もないように分配するのは、なかなか私には知恵が足りないが、難しい課題だと思う。それと、最初の「天におられる私たちの父よ」で、私が私であることを願っておられる、これが神様と私たちとの関係でもあるが、結局、人と人の関係も全部、相手の存在を丸ごとそのまま受け入れるというのは、究極のコミュニケーションだろう。私自身にとっても毎日の永遠の課題だ。家族に対してもそうだし、職場の人、地域の人に対しても、相手が相手である状態をそのまま丸ごと愛するのはなかなか難しい。でもこれも日々の宿題、ずっと続く課題かなと改めて思った。

・主の祈りは、言葉が悪いが、一番大事なことだけをうまく凝縮された、神様から教えられイエス様が教えてくださった祈り。何十年も前はピンと来ていなかったが、近年になって人間は罪深いなと思う。素晴らしい人たちもたくさんいるが、小さな嘘から始まって罪のない人はいないだろう。神さまから見たら、人間は本当に罪深いだろうなと、年をとってひしひしと感じるようになってきた。ミサの中のパンとぶどう酒の聖変化で、ぶどう酒は罪の赦しを捧げるからやはり大切なこと。また、地球上の生きているもの、小さな昆虫から大きな動物、私たち人間も含めて、ほとんど食べること、命をつなぐこと、危険から守ること（命が危険を感じて動物は反応する）、いろんな業があるが、繁殖、子孫を残すことの2本の柱で答えを保ち続けている。人間は動物と違ってそれだけではない。そこにとても複雑なものがあり、オメガを目指して（キリストに）向かう進化、確かにそうだと思う。人間はそういう精神性が素晴らしい。それこそ神さまに似せて創られたもの。命を守り、維持していくため、公平に分配され、皆同じように満たされていたら、少しはましかなと思う。だから非常に遠大な話だが、罪の赦しというのは、ぶどう酒を捧げて、私たちのためにイエス様が罪をあがなってくださったことは本当に大きなことで、主の祈りの半分は神を賛美する、神様のことを祈っている。残りの三つは私たちの日々の生活への願いを祈る。あらゆる教会の祈りの中に、罪深い私を救ってくださいというのが入っているので、人間が体を持って生きているかぎり、この祈りは最重要な大黒柱。この頃、世界のニュースを見ていたら本当に罪深いなと思う。だからこの祈りは人間が本当に生きていくために大切な祈りだと思う。

・この主の祈りを書き出していただいてすごく感激した。主の祈りはこれほどまでに深く、お祈りしながら思っていなかった。だからお米一粒にしても感謝して食べるということ。ただいただきます、ということだけだった。これを読んで、神様がお米を作ってくださっていること、神様がしてくださるということ、すごくありがたい。何かあったら、病気になっても、神様が与えてくれたことなのに、やはり自分がどうしてなったんだろうとか、そういうことを考えたことがある。これを読んだら、本当に神様がそこにいらっしゃるということに、すごく感激している。いろんなことに対しても嫉妬とか色々あるが、自分もカトリック教会の信者としてもう少し理解し、皆さんにももう少し伝えていかなければいけない、と思った。いつも一人一人のところに神様がいてくださるということを分かっているが、それをなかなか実感出来ずにいる。

・私もいい加減に生きているから、これを読んだらせこう（苦しく）なる。大方ぼーっとして生きている。時々ちょっと賢いことも思うが、大方ぼーっとしている。それでもこんな人間でも生かしてくれている、それは感謝しかない。生きるって、みんなに支えられて、それは神様から来ていると思うが、よくまぁ生きてこられたと思う。それだけは感謝している。自分は何もせずにいるが、神様の方へは顔は向けておかないといけないなと思う。

・私も毎日すぐによく言葉に出るお祈りだが、これを読んでこんな深いものがあるんだなと思った。もっとこれを読んでみたいのかなと思っている。

・私は漁師町で家族がいたから、私が食べている命と生かされている命を、小さいときから時々耳にしていた。そうゆう家族環境だった。何でもないようだがとても深い。とれた魚を食べる、とれた野菜を食べる、みんな同じ大地で生きている、そういうことを小さい時から体験し、耳にしてきたのでごく自然だ。私は大地、自然と共に生きている。だから周りのものを大事にしないといけない。私たちも同じように大事なもの。ずっとさかのぼっていくと、農家とのつながりも強かったが、教育の世界に入った父親の仕事から言うと、その同じ精神で全てが育つということをずっと感じた。だから農家は食べ物を作っている家族だが、その働きは、地上で世界中どこに行っても共通だということを知らぬ間に感じた。社会では士農工商と区別していたが、私たちの命を支えている自然というものは繋がりを持っているもの。漁師や海は、そこですぐに食べられるように準備してくれている。地上のものは人が手を加えないと食べられない。その違いを、徳島県内の山と海のあるところにいて、小さい時から体験してきたということが、私のいのちと周りとのつながり、自然と今の私たちというのを感じた。都会では違うと思うが、ここには海あり山あり、そのように感じてきたので、主の祈りというのはすごいなと思う。主の祈りであって私の祈りではない。主イエスが作った祈り、さすがに奥が深い。自分のことでもあるし、みんなのことでもある。そんなことを主の祈りという言葉自体、タイトルそのもので胸打たれる。主がわざと教えたのではなく、イエスご自身が祈っている。その実感が、私たちと共に居る神様の優しさ、根が深くしっかりとあるなといつも思う。そんなことが主の祈りの欠かせない、いつもあるものだ。

・司教書簡を読んでいる中で、タイムリーに響いたのが大地の実りのお話だった。先ほどもシソを（皆さんに分けるために）持ってきたが、今まではお母さんが持ってきて準備したものを、「皆さん、どうぞどうぞ」という良い所だけ、良い格好だけをしている感じだった。でも今日は、お母さんが来られなかったので、自分で収穫して持ってきた。お母さんはいつも、こんなに色々手間かけて、しかも収穫だけでなく育てるところからずっと全部やってきてくれたんだなということを、今日、何十年も一緒にいて初めて気がついた。お母さんてすごいな、それを惜しみなくみんなに与える人なんだな、ということを感じたところだったので、その大地の実りというのがすごく響いた。

・主人が亡くなった時に、本当に神様にいっぱい祈ったが、祈りは聞き入られなかったし、私から一番大事なものを取り上げて、もう神様のことは知らんと思っていた。私は信仰心ゼロと自分で思ってい

た。でもここ（教会）に来たら、私の悲しみを癒してくださるように皆が声かけしてくださるし、話を聞いてくださって、悲しみは消えないけど、前に向かって生きられるように、皆さんがすごく支えてくれているのがわかった。近所の方とか自分が属しているサークルの人たちも、わざとではないが、すごく自分が前に向けるように関わって下さっているのがすごく分かるようになってきた。こないだも、私が庭の木がどんどん大きくなるから切り倒したら、全部が切れなくてもう無理だと思っていたら、お隣のご主人がチェーンソーを貸ったと言って、チェーンソーを持ってきて木を切ってくださった。切った後また、その分解も日を改めて手伝いに来てくださった。そうやって私が困らないようにずっとしてくださっている、それに気がついた。私は主人が（そのような配慮を）してくれていると思っていたけど、それは神様なんだなぁと段々思えるようになってきた。主人がいて自分たち家族だけでできないということがあまりない時は、優しさとか、かけてくださっている言葉のどれだけ深いかがわからなかったと思うが、同じ「ありがとうございます」の言葉も、その込めている意味、態度が自分の中で変わってきたと思う。本当に、信仰なんかしないと思っていた自分だが、その自分に対してものすごく働きかけてくださっているんだなということを強く感じるようになった。今日も、「私たちの日毎の糧を今日もお与えください」というのが、本当に神様がしてくださっているのだなということをつくづく思う。

・ 耳が聞こえなくなって、皆さんが言われていることが何も聞こえない。大体こういうことを言われているのだなと想像しながら聞いていた。教会でお祈りし、神様に感謝して生きていく。この老化が進んでいく中で、体も次第に自由がきかなくなるが、これも神様の贈り物だと思いながら生きている。言葉に出して言えるようなことが出来ない。ただ感謝して生きている。

・ 主の祈りについて、色々と文章で教えていただいた。今まで深く考えなく、ただ唱えていただけだったので、とても良かったと思う。それで読んでみると色々気になるところがとてもたくさんあるが、その一つは日々の糧。それは神様が与えて下さっているということ。それと、神の愛とゆるしのところで、「愛もゆるしも人間からではなく、全き神様のものだからです」というところで、「父よゆるしてください。何をしているかわかっていないのです」という言葉が響いた。

・ 私はこの頃、もう年だから駄目だとか、こんなに年いっているのに何でしないといけないのとか、自分自身に言い訳する。だから皆さんは読んだと思うが、私は全然読んでいない。これも言い訳だが、自分が思っていることを言葉に出すのは下手だ。だからいつも思うが、こういう分かち合いがあった時に、なんであの時にこう言わなかったのだろう、こう言ったらよかったのに、とか、そういうところで私は駄目だ。あれも言えば良かった、これも言えば良かったのにと、家に帰ってから反省する。だから家に帰ってゆっくり読みます。

・ 何も知らなくても何とかなっていくものだなと、読んで新たに思った。自分は他人を支援できるような人間ではないが、何とかなっていっている。経験を積んで知識が身についていっても、やはり元々は他人を支援できるような人間ではない。たぶんイエス様がそれをしているんだなと、これを読んで主の祈りを詳しく説明してくれたら、そうだと改めて思った。いつまでたっても人間変わるものではないと思うが、そのようにしてくれるなら、動きたいなと思った。

・ 「『ゆるす』ことによって」とここに書いてあるが、私は率直にこれを読んで、相手の家族の所に訪れて「ゆるします」と私は言えるけど、最後の方に書いてある、犯人の夫人を抱きしめて「ゆるす」というところまでいけるかなと。長い年月をかけてなんとかその前半の所まで行けても、本当に手を取り合ってゆるす恰好だけしても仕方ないし、まだまだゆるすことについて、自分の理解が足りないと思った。本当にここまで最後まで相手を心からゆるす、ゆるしたつもりでも、また時間がたてば色々とまた怒りとか湧いてくるだろうし、難しいことだろうなと思った。ここまでできれば本当にいいだろうが…。最後死ぬ間際に、これができるかどうかくらいだろうと思った。

・ 皆さんの中で、自分はいい加減とか、言い訳をするとか、私も心当たりがあり、うなずきながら聞いていたが、自分のことを評価しなくてもいいのではないかと思うが…。

・ 最初にあった「あなたはあなた」というところだが、そういうことをやってしまう、思ってしまうあなたであり私だ。でも私以上に一番知っているのが神様かもしれない。たぶん「それがあなたよ」と責めることはない。「それがあなただから」と受け容れてくれている。もしかしたら神様がそうなのに、自分がこうではいけない、自分が自分を受け容れていないだけかもしれない。あなたと私の関係、神様と私の関係の中で、私が私自身でいいと思えたらいいなと思う。

阿南教会
（2021・6・6
14時45分～15時30分 8名）

・ この賛美というのが、毎週の御ミサの中でたくさん出てくるが、それが自分の中で感謝と賛美というところまでなかなかいかない。普段だったら、今日も元気にいられてありがとう、そういうレベルでの感謝。「お世話になります」という人間社会での感謝とは全然違うということが、今日、初めてわかった。元気でいられてありがとうではなく、病や苦しみを耐え忍ぶことによって賛美するということが、初めて少し分かったのでとても嬉しい。だから自分が元気ではつらつとして、よく働いてキラキラしていなくても、病気で打ちのめされて顔がぐちゃぐちゃでも、それが賛美になるとしたら、それは自分の努力とかではなく、大きなお恵みをいただいていることに気づければ、それが賛美になることが少しわかった。

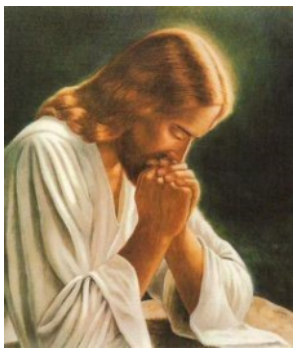
・ 今日、司教書簡を読んで（6）のところで、一人の青年が逮捕されている姿を見て、ある老人が「彼が私なのです」と言ったことは、自分がいろんな立場に立った時に、どうしてもそういう風にしてしまう。若い時であれば批判的に見たりとかしていたが、そうではなく、自分がその立場に立ったらまた同じことをする。こういうことで、自分も色々人に対して愛が足りなかったりできなかったり、そういうことをいっぱい反省した。私は膝が悪くて、先月は教会に来られなかった。段々教会に来られなくなるのではと思うが、こういう機会（分かち合い）はありがたい。

・ 四国は八十八ヶ所のお寺とか多い。会社で働くと、お寺や神社のこういう人たちとの付き合いは、優しく柔らかく話していることが周りには多い。会社のある人がある日、私にお菓子をくれてそれを食べたらとても怒られた。私はその怒りがたまらず、それが何日も続いた。そしてまた次のお菓子をくれた。どこからのお菓子かと聞くと、それは神様の前に捧げ祀ったお菓子だと言う。日本の習慣なら、みんなで分け合って食べる。食べてはいけないと言うのはおかしい。なぜ神様に祀ったお菓子を食べてはいけないか、何のために祀ったか。食べたら運が下がるとか、変なことが起きるとか…。そしたら四国八十八ヶ所のお世話をする人が来て、「○○さん（発表者）、柔らかくしゃべらなくてはいけないよ」と言われた。「塩の味がしなかったら世の中の光にならない」と、ある神父さんが言ったことを思い出し、やはり言わないともっとひどくなるから、ちょっと怒って言った。彼らも寺のことを世話している人だから、「言ったことが分からないことはない」と言われた。霊的なことを言ったら、よくわかってくれた。次の時は穏やかで大丈夫だった。イエスが、私たちの罪の代わりに十字架につけられ死んでくださったことは本当だ。ただ私たちには見えないけど、結局イエス・キリストは、本当は陰府に行って、こういうことをやってくれたと私は信じる。現実に本当に陰府・地獄はあるのだろうか、最近、ちょっと信じるようになった。人の病気とか霊的な関係とかがあることがわかってきた。一般の人からすると、その（罪の）身代わりをしてくれることは信じられないだろう。

・「私たちの本国は天にあるのです。この世で私たちは安心を探し求めます。」というところで、この安心というのは常に不安を感じているから、逆にそれを解消して安心を得るとある。「安心の数だけ不安があるようです」という文章もあり、確かに日常生活で安心したとか良かったとか思うことがよくある。それは逆に不安を感じていて、常に小さな不安を解消して安心して良かったと思っているんだなと思った。そのことに気付かされたのと、その安心とはまた違って、「平安というのはお金で買うことはできません。平安は天の父から与えられる失われることがない恵みなのです」ということが書いてあり、安心と平安というのは、自分の中では似てると思っていたが、神様から頂ける大きな恵みで、そのために私たちは祈るんだなと思った。それと、祈りの中で、「私たちの日毎の糧を今日もお与えください」というのも、日々の糧というのは、一言で祈りの中で表されるが、それは励ましや寄り添い、愛、信頼、希望、友情などなど、たくさんのとても良い言葉が書かれてあって、不安の中からこれを祈ることで、すごく希望が得られると思った。これからもそういう気持ちを込めて主の祈りを祈っていきたいと思った。

・初めて、「天におられる私たちの父よ」で始まるお祈りを黙想させて頂いて、良い機会をもらって今日はありがとうございました。

・神様は、私たち弱い者たちに、このような立派なお祈りの仕方を教えて下さり、一つ一つ目を留めていったら、最初の「天におられる私たちの父よ」というところでも、私が私であることを願っておられるよ、まるごとあなたを愛して下さっているよと、１人１人をすごく大事にして、この祈りを教えてくださった神様に心から感謝したい。星野富弘さんのことでも、「自分が生きるのが苦しかったけれども命よりも大切なものがあることを知った時に本当に嬉しかった」という詩の中にも、心の中にジーンと響くものがある。自分が本当に苦しくつらかった時に、やっと本当のことがわかったと言うことがあったり、人が悪いことをして捕まった時でも、その人の罪ではなくて、よく考えてみたら私も同じようなことをしているということで、一つ一つのお祈りの言葉の裏側を考えた時に、何か神様のすごく大きな愛を感じる。と同時に、こんな私でも神様がゆるして下さっている、すごくありがたいお祈りの言葉だ。カトリック新聞に、「祈りは、自分の思い通りに神様を動かすのではなく、自分が謙遜になって人に奉仕する、分け与える、そうすることが祈りだ」とあったが、自分のために神様を動かすのではなく、私が人のために少しでも仕える者になれるよう、主の祈りも神がこんな私たちのことを大事に、この祈りで全てが言い表されている、その祈り方を教えてくれたんだなと思った。



・疑問に思っていたことがある。「私たちの罪をおゆるしください。私たちも人をゆるします」とあるが、これは前の文語体の時と逆になっている。「我らが人をゆるすごとく我らの罪を赦したまえ」になっていたが、要するに私たちも皆さんをゆるしますというのと、私がみんなをゆるすから私をゆるしてくださいというのと、順番が逆だが、実際は原文は元々はどうか。これが変わったとき「あれっ」と思った。日本の司教団が変えたということは、それだけの根拠があったということ。私は、人をゆるすから私もゆるしてくださいという方が、個人的には好みに合うが、実際はどうかなと思う。ゆるしてくれたら人をゆるすというのと、まず先に自分が人をゆるすから私もゆるしてくださいというのとは、ちょっと意味が違うような気がする。

・まずは私たちは神様によってゆるされているということ。その神様によってゆるされている私たちが、同じゆるしを隣人にも、そういうような意味合いもあるのではないか。

・ゆるすことができるのは神だけ、ということかな。ゆるしてくださいということは神様に言っているので、私たちも人をゆるします、というのは、私が人間をゆるすわけだから、階層が違うのかな。

・「天におられる私たちの父よ」日本語でそのように唱えるが、原文は「アッバ」から始まる。なので、なぁ父ちゃん、親父、と呼びかけて、私たちの、いま、天に、という順番。ねぇお父さんと呼びかけていいんだよと言ってくれているようで、すごく親しみを感じる。日本語ではそれが伝わらないのが残念。「私たちの罪をおゆるしください。私たちも人をゆるします」真に悔い改めとか罪のゆるしを与えられた者、まことに経験した者は、自分がゆるされたのと同じように、人をゆるそうとする人生をそこから歩み始める。「私たちを誘惑におちいらせず」私たちの成長を促す祝福として与えられている試練、誘惑を、私たちをつまずかせる誘惑とならないようにしてください。「悪からお救いください」自分の弱さを全く知らなかったので、自分の力に過信し、神に信頼しないこと、悪意の戦いや誘惑に無防備になるということ、それから守ってください。悪からの誘惑に負けそうな自分を守ってください。救ってください。何かの仕打ちをされたら、やり返す勇気、その誘惑にさらされるが、それをやり返さない勇気に変えてください。とにかく、この主の祈りというのは、ねぇ父ちゃん、から始まり、この親しみのある雰囲気の中で、神様を中心に、神様が主人公でいられるように私たちを変え、支えてください、と願っているようだ。それが、周りや社会を神の国へと導くという、尊い祈りでもある。それを忘れがちに意識せずに唱えているが、そんな思いで唱えていけば、この社会、国、世界をみ国へ変えていく…そんな大事な一役を担えることになるのかもしれない。

「主の祈り」神様バージョン
―地上に住んでいるわたしの子らよ―

「主の祈り」神さまバージョンを紹介します。主の祈りは「天におられる私たちの父よ」から始まりますが、「地上に住んでいるわたしの子らよ」で始まる御父から私たちに向けての神さまバージョンです。各教会の分かち合いの最後に唱えて終わりました。

地上に住んでいるわたしの子らよ、お前たちはいつも何かを心配し、孤独で、たくさんの誘惑にさらされている。

わたしはあなたの名前をしっかりと覚え、あなたが聖なる者となるようあなたの名前を呼んでいる。

わたしはあなたを愛している。あなたは一人ではなく、わたしと共に生きている。あなたはわたしと共に神の国をつくり、この国を受け継ぐだろう。

わたしの望むことを行いなさい。わたしの望みとは、あなたが幸せになることであり、神の栄光は、人の喜びが満ちあふれるところにある。

いつもわたしに頼りなさい。そうすれば、日ごとの糧が今日も与えられる。その糧をあなたの隣人と分かち合いなさい。

あなたの罪は全てゆるされている。だからあなたも人をゆるしなさい。誘惑におちいらないよう、わたしの手をしっかりとつかみなさい。わたしは必ずあなたを悪から救う。

（レジオ・マリエ　長崎）

2020年度高松司教区決算報告について

（次ページ「資金収支計算書」参照）

昨年度は、コロナ渦の影響で教区活動は低下し、収入面では特に特定献金の減少に影響を及ぼしたが、篤志信徒からの大口献金が収入の落ち込みを支えた。支出面でも広報委員会を除いて諸委員会活動の支出がほとんどない状態であった。また、ＺＯＯＭ会議の利用も管理費の減少につながった。

概数で述べると、教区（各小教区分と教区本部事務局分と合わせた合計）の昨年度の総支出は「経常支出計」の２億１１７９万円、総収入は「経常収入計」の２億１５６８万円で、資金ベースでは３８９万円の黒字である。昨年度の大きな支出としては西条教会の長期貸付金１１８０万円の免除があるが、それを補い黒字決算とできたのは特定個人（複数）からの献金（「教区献金」と「一般特別献金」）２０００万円の寄与が大きい。

しかし、建築物などの減価償却を加えた正味財産増減では４３０４万円の赤字であり、教区の実情は、昨年度だけを考えるのであればかろうじて黒字であったが、巨額の献金を受けてすら、本来、建物の修理・改築などに備えて貯蓄する必要のある金額を残せてはいない。年度末時点で、教区本部事務局が使用目的を限定されることなく使い得る金額は総額で１億７３１４万円であり、教区の予算規模からは聖堂や信徒会館といった中～大規模の建物を新築することは難しい。

納付金制度が始まって2年目であるが、司祭人件費以外の教区の全活動費を支える納付金（A）についても司祭人件費の納付金（B）についても、各小教区からほぼ予算通りに納入されている。修道（女）会や宣教会からもほぼ恒常的に献金（祭式献金を含む）を頂けているので（昨年度は合計７２２万円）経常収支レベルでは大きな赤字を出さないで済んでおり、納付金制度が始まる前には毎年２０００万円近くの赤字がでていたことを考えると大きく改善されてはいるが、教区の経済的自立に向けては、なお一層の工夫と努力を必要とする状況である。

（本部事務局長　小山　一　助祭）

２０２０年度宗教法人「カトリック高松司教区」会計　資金収支計算書　（２０２０年４月１日～２０２１年３月３１日）

支出の部

科目	教区本部合計	小教区合計	総合計
経常支出の部			
祭儀費	35,981		35,981
諸委員会活動費	1,379,406		1,379,406
生涯養成委員会	0		0
広報委員会	227,356		227,356
典礼委員会	0		0
青少年委員会	0		0
人権委員会	0		0
諸宗教委員会	0		0
エキュメニズム委員会	0		0
女性の会	0		0
教区支援事業	1,152,050		1,152,050
外国人宣教司牧委員会	0		0
宣教活動費	640,423		640,423
助成金支出	9,023,685		9,023,685
小教区助成金	7,023,685		7,023,685
修道会助成金	2,000,000		2,000,000
援助事業費	2,283,971		2,283,971
人件費教区事務局	37,914,364		37,914,364
本俸・諸手当	34,203,875		34,203,875
法定福利費	3,710,489		3,710,489
退職金	0		0
福利厚生費	298,701		298,701
維持管理費	3,657,060		3,657,060
保守管理費	1,703,053		1,703,053
水道光熱費	1,468,144		1,468,144
什器備品費	5,300		5,300
営繕費	0		0
園芸費	55,103		55,103
損害保険料	425,460		425,460
事務管理費	18,803,174		18,803,174
事務印刷費	318,973		318,973
消耗品費	187,937		187,937
電話ＦＡＸ料	115,818		115,818
通信費	453,923		453,923
支払手数料	104,020		104,020
旅費交通費	74,630		74,630
公租公課	702,332		702,332
会議費	132,665		132,665
接待交際費	264,370		264,370
報酬手数料	2,678,371		2,678,371
諸会費	8,000		8,000
自動車諸費	824,145		824,145
修繕費	1,108,420		1,108,420
賃借料	20,000		20,000
雑費	11,809,570		11,809,570
養成費	1,060,080		1,060,080
教育費	0		0
運営分担金	1,050,000		1,050,000
会議費	0		0
旅費交通費	10,080		10,080
養成援助費	0		0
宣教司牧費		10,206,879	10,206,879
特定献金支出		4,170,094	4,170,094
世界こども助け合いの日献金		283,562	283,562
聖地献金		118,254	118,254
愛の献金		687,966	687,966
広報の日献金		153,612	153,612
聖ペトロ使途座献金		182,845	182,845
世界難民移住移動者献金		202,475	202,475
世界宣教の日献金		186,280	186,280
宣教地召命促進の日献金		174,200	174,200
一粒会献金		2,180,900	2,180,900
教区献金		0	0
納付金支出		35,376,166	35,376,166
教区納付金支出		34,546,166	34,546,166
修道会等納付金支出		830,000	830,000
人件費支出		1,158,900	1,158,900
運営管理費		37,653,160	37,653,160
補助活動支出		435,372	435,372
墓地・納骨堂管理支出		269,150	269,150
雑損失		47,427,094	47,427,094
非課税雑損失		47,427,094	47,427,094
経常支出計	75,096,845	136,696,815	211,793,660
財務支出の部			
固定資産支出	18,416,000	43,643,090	62,059,090
基本建物購入支出	0	13,248,000	13,248,000
普通建物購入支出	5,100,000	0	5,100,000
建物付属設備購入支出	1,232,000	6,028,200	7,260,200
構築物購入支出	9,284,000	483,300	9,767,300
祭儀備品購入支出		110,000	110,000
器具備品購入支出	0	1,290,360	1,290,360
長期貸付金支払支出	2,800,000		2,800,000
特別目的預金積立支出		22,483,230	22,483,230
固定負債支出		12,700,000	12,700,000
長期借入金返済支出	0	12,700,000	12,700,000
その他の財務支出	58,555,291	8,690,014	67,245,305
立替金支出	6,655,049	1,500,060	8,155,109
仮払金支出	30,208,911	2,623,609	32,832,520
未払金支出	2,531,600	3,048,280	5,579,880
仮受金返還支出	14,074,723	20,000	14,094,723
預り金支出	5,085,008	1,498,065	6,583,073
内部取引勘定支出	12,357,078		12,357,078
基金勘定支出	3,965,318		3,965,318
教区事務勘定支出	6,178,389		6,178,389
一粒会勘定支出	1,660,100		1,660,100
墓地納骨堂勘定支出	144,432		144,432
霊性センター勘定支出	408,839		408,839
資金調整勘定	△2,231,600	△349,386	△2,580,986
期末未払金	△2,231,600	△349,386	△2,580,986
財務支出計	87,096,769	64,683,718	151,780,487
支出計	162,193,614	201,380,533	363,574,147
次期繰越金	514,494,003	97,169,922	611,663,925
支出合計	676,687,617	298,550,455	975,238,072

収入の部

（単位：円）

科目	教区本部合計	小教区合計	総合計
経常収入の部			
納付金収入	40,689,062		40,689,062
教区納付金（A）	11,125,000		11,125,000
教区納付金（B）	22,024,000		22,024,000
教区納付金（C）	7,540,062		7,540,062
分担金収入	5,544,500		5,544,500
小教区分担金収入	302,500		302,500
その他分担金収入	5,242,000		5,242,000
特定献金収入	10,331,605		10,331,605
世界こども助け合いの日献金	1,203,480		1,203,480
聖地献金	138,254		138,254
愛の献金	687,966		687,966
広報の日献金	125,207		125,207
聖ペトロ使途座献金	197,845		197,845
世界難民移住移動者献金	138,373		138,373
世界宣教の日献金	201,280		201,280
宣教地召命促進の日献金	189,200		189,200
教区献金	7,450,000		7,450,000
一粒会献金収入	2,455,900		2,455,900
信徒通常献金収入		50,978,874	50,978,874
教会維持献金		37,882,486	37,882,486
ミサ聖祭献金		11,892,025	11,892,025
大祝日献金		1,204,363	1,204,363
特定献金収入		4,170,094	4,170,094
世界こども助け合いの日献金		283,562	283,562
聖地献金		118,254	118,254
愛の献金		687,966	687,966
広報の日献金		153,612	153,612
聖ペトロ使途座献金		182,845	182,845
世界難民移住移動者献金		202,475	202,475
世界宣教の日献金		186,280	186,280
宣教地召命促進の日献金		174,200	174,200
一粒会献金		2,180,900	2,180,900
教区献金		0	0
特別献金収入	23,248,006	43,190,798	66,438,804
祭式献金	2,385,732	8,365,920	10,751,652
特別献金	4,655,674		4,655,674
一般特別献金	1,595,000	13,499,728	15,094,728
一般献金	14,611,600		14,611,600
営繕献金		4,483,800	4,483,800
建設献金		15,976,350	15,976,350
特別事業献金		280,000	280,000
共同司牧収入		585,000	585,000
助成金収入		7,023,685	7,023,685
教区助成金収入		7,023,685	7,023,685
墓地・納骨堂収入	3,760,000	2,031,000	5,791,000
非課税永代使用料収入	0	0	0
課税永代使用料収入	1,800,000	1,550,000	3,350,000
管理料収入	1,960,000	281,000	2,241,000
その他納骨堂等収入		200,000	200,000
補助活動収入		751,726	751,726
行事収入		1,000	1,000
課税事業収入		437,424	437,424
非課税事業収入		313,302	313,302
雑収入	96,130	11,831,195	11,927,325
課税雑収入	4,530	0	4,530
非課税雑収入	91,600	11,831,195	11,922,795
事業収入	1,576,380	8,003,442	9,579,822
受取利息配当金	14,380	45,942	60,322
施設利用料収入	1,562,000	541,500	2,103,500
駐車場収入		7,416,000	7,416,000
経常収入計	87,701,583	127,980,814	215,682,397
財務収入の部			
固定資産収入	12,700,000	62,961,212	75,661,212
基本土地売却収入			0
建設仮勘定回収収入	0		0
車両売却収入	0		0
長期貸付金回収収入	12,700,000		12,700,000
特別目的預金取崩収入		62,961,212	62,961,212
固定資産負債収入		2,800,000	2,800,000
長期借入金収入		2,800,000	2,800,000
その他の財務収入	59,500,736	5,226,769	64,727,505
未収入金収入	3,053,880		3,053,880
立替金回収収入	6,571,002	1,462,640	8,033,642
仮払金回収収入	30,235,671	2,744,927	32,980,598
預り金収入	5,265,460	999,202	6,264,662
仮受金収入	14,374,723	20,000	14,394,723
内部取引勘定収入	12,357,078		12,357,078
基金勘定収入	3,965,318		3,965,318
教区事務勘定収入	6,178,689		6,178,689
一粒会勘定収入	1,659,800		1,659,800
墓地納骨堂勘定収入	144,432		144,432
霊性センター勘定収入	408,839		408,839
資金調整勘定	△431,386		△431,386
期末未収入金	△431,386		△431,386
財務収入計	84,126,428	70,987,981	155,114,409
収入計	171,828,011	198,968,795	370,796,806
前期繰越金	504,859,606	99,581,660	604,441,266
収入合計	676,687,617	298,550,455	975,238,072

2020年度はコロナ禍の影響でミサ・行事・活動ができない中にあって、教区納付金制度では、皆様のご協力を得てほぼ予算どおりの実績とすることができ、教区会計の改善に結果を残すこととなりました。
ここに厚く御礼を申し上げます。有難うございました。
2021年度も引き続きご協力くださいますようお願いいたします。

地区・ブロックの話題

～愛媛ブロック～
西条教会
5年後の未来が楽しみ

西条教会では、4月4日の復活の主日にお二人（Shinki Woo君、松本琉偉斗君）の初聖体が執り行われました。西条教会では、お二人の初聖体と主のご復活で祝福ムードでいっぱいでした。今年は、新型コロナの影響でその後のパーティは開くことができませんでしたが、教会で準備したプレゼントを皆もらってとても嬉しそうでした。

最後に全員で記念写真を撮ったのですが、ふとミサに参加する信者さんがこの5年で大きく変わったなと感じ、ちょっと西条教会の6年前にさかのぼってみました。写真を見て老い（笑）という面で6年という歳月の重さを感じるとともに、西条教会は6年前から多様化が進んでいたんだなと感じました。その他に感じたのは、ミサの参加者が少しづつですが増加していること、若い外国人の信者さんが増えたこと、ミサ参加者の国別比率が大きく変わったことです。現在の西条市の人口は約11万人、その中の外国人は1580人で105人／年の割合で毎年増加しています。5年後は、もっとミサに参加する外国人の信者さんが増え、変わっていくんだろうなと感じました。今年は、西条教会は大きな節目を迎えます。教会建築後60年が経ち老朽化が進んだため、名残惜しいですが苦楽を共に歩んでくれた教会を取り壊し、皆様のご支援をいただきながらのリフォームを行う予定です。新しい教会で5年後の未来がどのように変わっていくのか、みんなで変えていけるのか、楽しみです。

（本稿は4月に送付いただいていたのですが、原稿の管理が不十分で掲載が遅くなりました。関係者の皆様にお詫びいたします。）

初聖体

2021年4月4日

2015年3月15日

聖ドミニコ宣教修道女会
松山修道院完成

聖カタリナ学園高等学校は4年後に創立100周年を迎えます。100周年の記念事業の一環として、耐震を考えた聖母寮・校舎・修道院を新築することになりました。奇しくも5月8日「説教者修道会の保護のマリア様の祝日」に川上神父様司式により祝別式を行うことができました。また、5月28日には完成竣工式を行いました。コロナ禍にあり、限られた人数ではありましたが厳粛に行われました。これも神様と関係者の皆様のお陰です。この聖なる家を拠点にし。人びとへの宣教の場となれるように頑張りたいと思います。ここは高校と幼稚園と教会の中心地点に位置しています。心より感謝申し上げます。まずはご報告まで。感謝と祈りを込めて！

シスター亀田

聖堂内

竣工式にて

新住所
〒790－0024
松山市春日町14番地3
聖ドミニコ宣教修道女会
松山修道院

7月教区司祭評議会

高松教区司祭評議会が7月6日にZOOMを用いたオンライン形式で開かれた。

2020年度カトリック高松司教区決算概要の報告

教区会計は本部会計と小教区会計とからなるが、教区事務所で取り扱う本部会計については教区報に詳細な報告が毎年ある。ミサが非公開となった影響等で収入がかなり減ったが、篤志家（個人及び修道会）の大口献金によって支えられ、また、コロナ禍の影響で委員会活動等が停滞し支出が抑えられた結果、赤字基調は変わらぬものの赤字幅は抑えられた。

「ラウダート・シ」ならびに「教区正義と平和委員会担当」

人権や環境に関する問題は現代社会の直面している大きな課題であり、日本の教会としてもあらためて取り組もうとしている。高松教区では、担当者を各地区ブロックで任命し、信徒1人ひとりが身近な問題として感じ考えてラウダート・シに添った様々な活動に取り組めるようにする。また、教区人権委員会の中の正義と平和に関連する各グループ間の連携が不十分だったので、改善に向けコミュニケーションを工夫することとなった。

教区の将来に向けた取り組みについて

司祭の高齢化にともない数年内には司祭が不足し始める。その事態に向けた準備が直ぐにも必要であり、1年後には具体的な方向性（教区の可能な近将来像を示し、それに向けた道）を出す必要があろう。小教区の統廃合や信徒の養成について意見が交わされた。信徒への配慮と同時に、教会が信徒以外の一般社会にも開かれている必要性も確認された。

また、司祭評議会と宣教司牧評議会を統合させる可能性について話し合いし、さらに、カトリック高松司教区就業規則の労働基準局への届け出に向けたプロセスについて事務局から説明を行った。

（教区の可能な近将来像を　小山　一（教区事務局長）

愛媛地区小教区
コロナ禍の共同体活動
（小教区インタビューから）

日本中、世界中がCOVID－19のパンデミックの中にあり、教会活動は休止状態にあります。そこで、小教区共同体で何か、活動があったかについて、愛媛地区小教区の聞き取りを行いました。

松山教会は、コロナ禍ですべての活動が中止されたため、教会としての活動は特にありません。**道後教会**は、新型コロナ救済募金を教会内で集め、カリタスジャパンへ送金されました。今**治教会**は、共同体の活動として特別にはないが、外国人や亡くなった人のために特にかかわっているとのことです。**西条教会**は、ホームページを使っての全信者さんへの連絡、LINEでの緊急連絡の活用を行っています。**宇和島教会**では、組織的に訪問活動を行っているわけではありませんが、病者の方、外出を制限された高齢者施設の利用者の方からの依頼により信者さんが訪問や聖体奉仕者としてご聖体を授与されています。**八幡浜教会**では、聖堂のある市外に住むベトナム研修生がミサに参加できないことが多いため、近隣の信者やFaceBookでの情報交換を行っています。

まだまだ出口の見えないパンデミックですが、他の小教区の情報を参考にして日々を過ごしてまいりましょう。

子どもと女性をまもる委員会

聖職者による性的虐待

相談窓口

電話番号：087-831-6659

相談窓口受付時間
月曜日から金曜日（祝日除く）
午前9時～午後5時

高松教区対応チーム

◇教区スケジュール◇

9月
1日(水) すべてのいのちを守るための月間
2日(木) 岩永千一師命日
5日(日) 年間第23主日
　被造物を大切にする世界祈願日
8日(水) 聖マリアの誕生
10日(金) 日本205福者殉教者
12日(日) 年間第24主日
14日(火) 十字架称賛　司祭評議会
19日(日) 年間第25主日
20日(月) 敬老の日
21日(火) 聖マタイ使徒福音記者
23日(木) 秋分の日
24日(金) 深堀敏司教命日
26日(日) 年間第26主日
　世界難民移住移動者の日
28日(火) 聖トマス西と15殉教者
29日(水) 聖ミカエル　聖ガブリエル　聖ラファエル大天使

10月
2日(土) 守護の天使
3日(日) 年間第27主日
7日(木) ロザリオの聖母
10日(日) 年間第28主日
17日(日) 年間第29主日
24日(日) 年間第30主日　世界宣教の日
28日(木) 聖シモン　聖ユダ使徒
31日(日) 年間第31主日